

博士論文審査の結果の要旨および担当者

学位申請者 DPH1602 中村 豪志 氏

論文担当者 主査 藤野 秀樹



論文担当者 副査 田端 千春



論文担当者 副査 戴 毅



博士論文名 Measurement of blood methadone concentration and investigation of the possibility of ^{early} effect assessment in Japanese patients with cancer pain.
日本人がん疼痛患者におけるメサドンの血中濃度測定および早期効果判定の可能性に関する検討

【論文審査の結果の要旨】

1/20 に博士論文発表会が開催された。博士論文発表会では、オピオイド鎮痛薬であるメサドンの適正使用を目的としたがん患者への反復経口投与用量反応試験が実施され、ERISA 法による免疫測定による各投与群における血中濃度の経時的変化及び定常状態までの到達過程^上について説明があった。また疼痛緩和の指標と血中濃度との関係についても検討し、早期効果判定への可能性についても考察し、個体間差を加味しながら早期増量は少量ずつ且つ慎重に行うべきと結論付けた。その後の質疑応答では聴衆者から様々な意見や質問を受け、いずれも真摯に対応して質問者の納得を得ていた。

主査及び副査にて本発表会について審議し、本論文は薬剤の適正使用や個別化医療等の薬学研究として非常に有用な内容であると考えられ、申請者の中村豪志氏への博士授与は妥当との評価であった。

最終試験の結果の要旨および担当者

学位申請者 DPH1602 中村 豪志 氏

論文担当者

主査 藤野 秀樹



副査 田端 千春



副査 戴 毅



博士論文名

Measurement of blood methadone concentration and investigation of the possibility of ^{early} effect assessment in Japanese patients with cancer pain.
日本人がん疼痛患者におけるメサドンの血中濃度測定および早期効果判定の可能性に関する検討

【最終試験の結果の要旨】

1/20 に博士論文発表会が開催され、その後で論文担当者からの口頭試問による最終試験が別室にて行われた。

口頭試問による最終試験では、いずれの論文担当者からの本研究に対する質問に的確な回答がなされていた。これら論文審査にて申請者の中村豪志氏は本研究の意義や背景を理解するのみならず、一貫性・論理性を兼ね備えた研究遂行能力を有している他、提出された論文も研究目的や方法が適切に記載されており、考察などを裏付ける引用文献も適切に用いられていることが確認された。また申請者は今後も研究活動を継続する予定で、既に新たな論文投稿等も行っており、精力的な研究活動の遂行が期待された。

よって、いずれの論文担当者も申請者の中村豪志氏への博士授与は妥当であると評価した。